

全体総括

○計画期間；平成20年4月～平成26年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

日向市では、平成11年1月に中心市街地活性化基本計画を策定し、日向市駅周辺土地区画整理事業、日向地区連続立体交差事業、中心市街地商業集積整備事業を積極的に推進することにより中心市街地の再生に取り組んできた。

その後、本市では更なる活性化に向け、新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、平成20年3月12日付けで内閣総理大臣の認定を受け1年間の延長の上、6ヶ年計画で基本計画に基づいて中心市街地の活性化事業を推進してきた。

この「日向市中心市街地活性化基本計画」の中で、「人が集い、人がふれあい、人が暮らす、市（いち）的にぎわいに満ちた都市空間の形成」の基本理念を基に「産・学・民・官」協働のまちづくりを総合的に展開してきた。

平成18年12月に開業した新しい日向市駅は、優れた景観と木材（地元産のスギ材）と鉄のハイブリット構造という最先端の技術が融合した素晴らしい施設として生まれ変わり、日向市中心市街地の核はもとより本市の玄関口として集客・回遊の拠点となると伴に、街のシンボリックな存在として賑わいの創出に大きく寄与している。

駅前交流広場、野外ステージ及び11街区の公園広場が完成するなど区域内に計画されていた交流拠点施設が概ね完成した事によりイベント環境も尚一層充実し、イベントによる集客数も大幅に伸びた。また、口蹄疫終息宣言以降は、復興イベントなどが活発に開催され、イベント会場として市民からの認識も高まっており、市民の企画によるイベント数の増加による賑わい創出がなされ、中心市街地全体の活性化が伺える。

商店街においても土地区画整理事業に伴い商業集積事業も順調に進んでおり、スーパーマーケットが出店するなど賑わいを取り戻しつつある。

しかし、長引く不況の影響もあり、空き店舗への新規出店に対する空き店舗対策補助金等で解消を図っているが、区画整理事業により既存の個店がリニューアル、若しくは廃業といった二極化の結果となるなど、中心市街地全体の商業活性化は継続的な課題となっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた ②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

基本計画において、都市機能の再生・更新を行い、市民や日向入郷圏住民の生活文化交流の拠点としての機能強化を図り、多様なニーズを持つ人々が安心して暮らせる中心市街地の形成を目指して40事業を掲げ取り組んできた。

計画期間については、24年度に事業完了であったが基幹事業である区画整理事業の進捗状況とそれに伴う商業集積の状況等を鑑み1年延長することとした。

認定終了時には、40事業のうち13事業が完了し21事業が継続、6事業が未着手という状況である。

継続中の21事業はすべてソフト事業であり、これからも関係機関や関係団体と協議しながら推進していきたい。

未着手の6事業に関しては、区域内に新築する店舗や住居の固定資産税の減免事業やまちづくり資料室整備事業、商店街共同駐車場整備事業などは、厳しい財政状況や経済状況により調整はしたものの関係機関と足並みが揃わず断念せざるを得なかった。

しかし、主要事業は順調に進捗したと考えている。

とくに日向市駅を中心とした土地区画整理事業、商業集積事業、交流拠点整備事業を一体的に進めていったことで住居、商業、交流機能の集積が図られたことや公共交通機関による中心市街地のアクセスの利便性の向上が図られたことなどから成果はあったものと判断している。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(日向市としての見解)

計画初期段階である平成20年度に完成した連続立体交差事業により、その勢いが加速した。

鉄道が高架化され踏切が除去され慢性的な交通渋滞が解消されたほか、東西に分断されていた市街地の一体化を図ることにより土地の利活用が可能となったことで利便性が向上した。

また、新たに生み出された鉄道高架下スペースを多目的空間や駐車場として活用することが可能となった。

基幹事業である土地区画整理事業の進捗状況に合わせ歩道空間や駐車場の整備を行いながら商業集積整備事業も行い、商店街の再編も行ってきた。

交流拠点整備事業では、活気に満ちた空間づくりを目指し鉄道高架事業により新しくなった日向市駅西口に市民の憩いやすらげる空間でありながら、多彩なイベントもできる交流広場や野外ステージを建設し、11街区に公園広場を建設するなど回遊性のある都市空間づくりを行ってきた。

このような結果、以下のような効果があった。

- ・13街区にスーパーマーケットが開業し、日向市駅周辺に分譲マンションや賃貸マンションが建設されるなど民間投資も増えたことにより周辺地域が減少する中、区域内の居住人口が大幅に増えた。
- ・平成20年度より進めている空き店舗対策事業により飲食店や、古着屋、美容室、カフェなど21店舗が新規出店したことにより若年層の歩行者が増えた。
- ・それまで日向市駅西口を発着所として4路線20便で運行していた福祉バスを日向市東口完成に合わせてコミュニティバスと位置づけ駅東口を発着場とし8路線40便に増便し利便性が向上したことにより駅利用者だけでなく通院や買い物をする高齢層の来街者も増えた。
- ・日向市駅前交流広場は、イベント広場としてだけでなく、日常は高齢者グループが太極拳をし

たり、学生や子供達がダンスの練習をしたり、家族連れが噴水や手押しポンプで遊んだりと常ににぎわいのある広場となった。

このようなことが主な要因となり3つの数値目標をすべて達成し活性化は図られたものと判断している。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

日向市中心市街地活性化協議会については、平成19年の設立より、基本計画の総合的かつ一体的な推進を目的として、関係者及び事業主体の合意形成と事業の推進をおこなってきた。

また、平成21年度より、本市在住の専門家をタウンマネージャーとして起用し、日向市駅周辺土地地区画整理事業、中心市街地商業集積整備事業における地元商業者及び地権者等との合意形成等、基本計画に記載されている事業及びその他活性化に寄与する事業の推進を図った。

基本計画については、計画期間において全ての数値目標を達成し、特に市民協働による持続可能なまちづくりの目標指数である市民企画によるイベント開催回数については、平成22年度に公園と野外ステージが一体となった交流広場が完成したことにより、賑わい創出の拠点として市民から認識され、平成25年度はイベント開催回数が70回を超えた。

今後はこれらの資源を有効活用し、いかに商業活性化に繋げていくかが課題であり、今後も市の独自計画に基づき、引き続き活性化事業の推進を図っていきたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

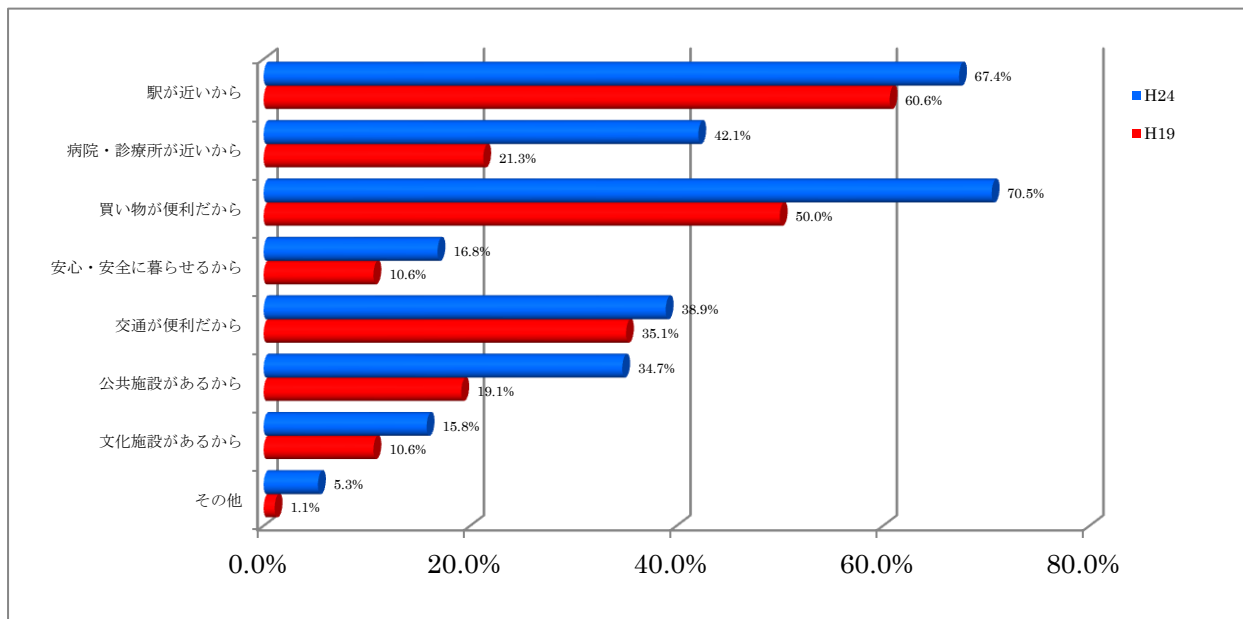
本市では、中心市街地の現状や課題、中心市街地に対する意識やニーズ変化を把握することを目的に、計画当初の平成19年7月と平成24年8月に市民1,000人を無作為に抽出し、郵送によるアンケート調査を実施した。

■中心市街地へ住みたい理由【複数回答】

住んでみたい理由としては、「買い物が便利だから」が支持率70.5%、「駅が近いから」が67.4%と多く、次いで「病院・診療所が近いから」が42.1%、「交通が便利だから」が38.9%、「公共施設があるから」が34.7%となった。全体的に項目での大幅な差は見られなかった。

前回と同様、「駅が近いから」「交通が便利だから」という交通の利便性についての項目が支持

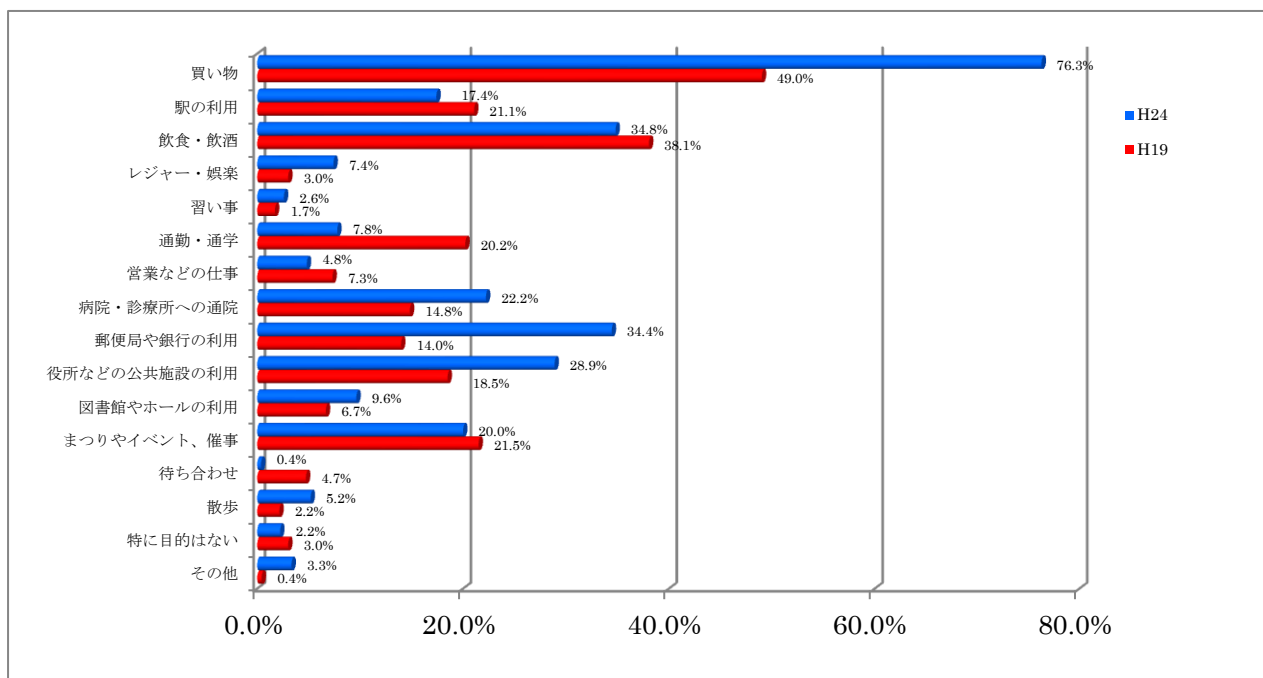
を受ける結果となった。



■ 中心市街地に出かける目的【複数回答】

出かける目的では「買い物」が最も多く 76.3%の支持を受けた。次いで「飲食・飲酒」が 34.8%、「郵便局や銀行の利用」が 34.4%という結果となった。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果ではあるが、「買い物」を目的としている方が 30 ポイント程支持を上げていることから、大型スーパーの誘致や空き店舗対策の効果が認められる。

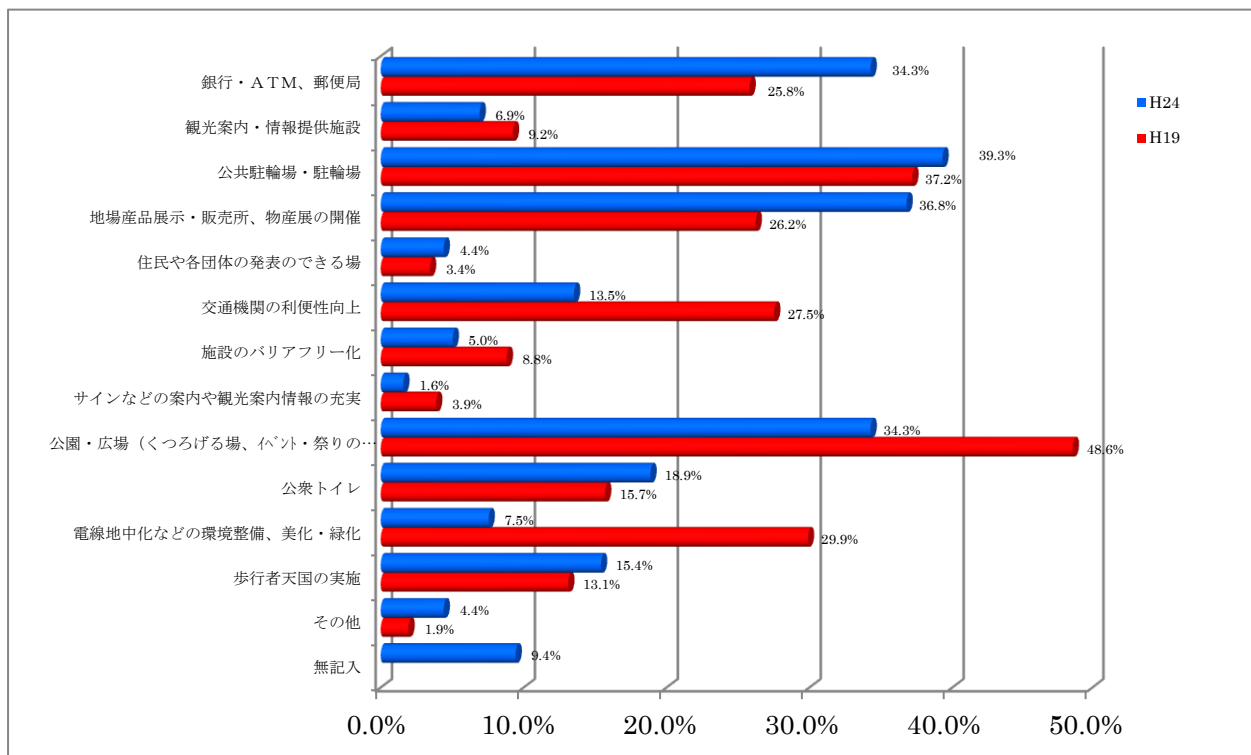


■ 中心市街地に求める公共公益施設、そのサービスや取組み【複数回答】

自家用車を利用する人が多いことから「公共駐車場・駐輪場」が 39.3%の支持と最も多い結果となった。次いで「地場産品展示、販売所、物産展の開催」が 36.8%、「公園・広場（くつろげる場、イベント、祭りの場）」が 34.3%となっている。

前回の調査と比較すると、「公園・広場（くつろげる場、イベント、祭りの場）」14ポイント「電柱地中化などの環境整備、美化・緑化」は支持率が 22 ポイント減となっていることを考え

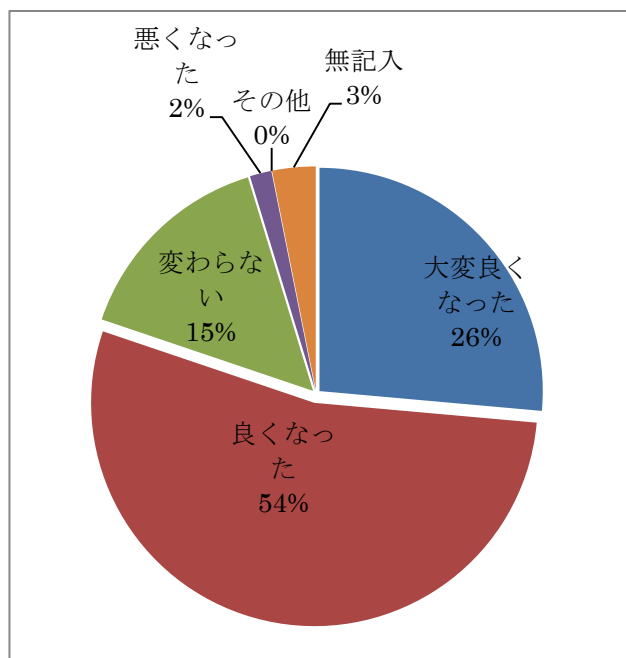
ると、区画整理事業や交流拠点整備事業の効果があると言える。



■5年間の街なかの変化

5年前に比べ「大変良くなった」「良くなった」が8割を占めており、“駅周辺が整備され明るく綺麗な街なみになった”という意見が多く、街なかの整備について評価されていることがうかがえる。

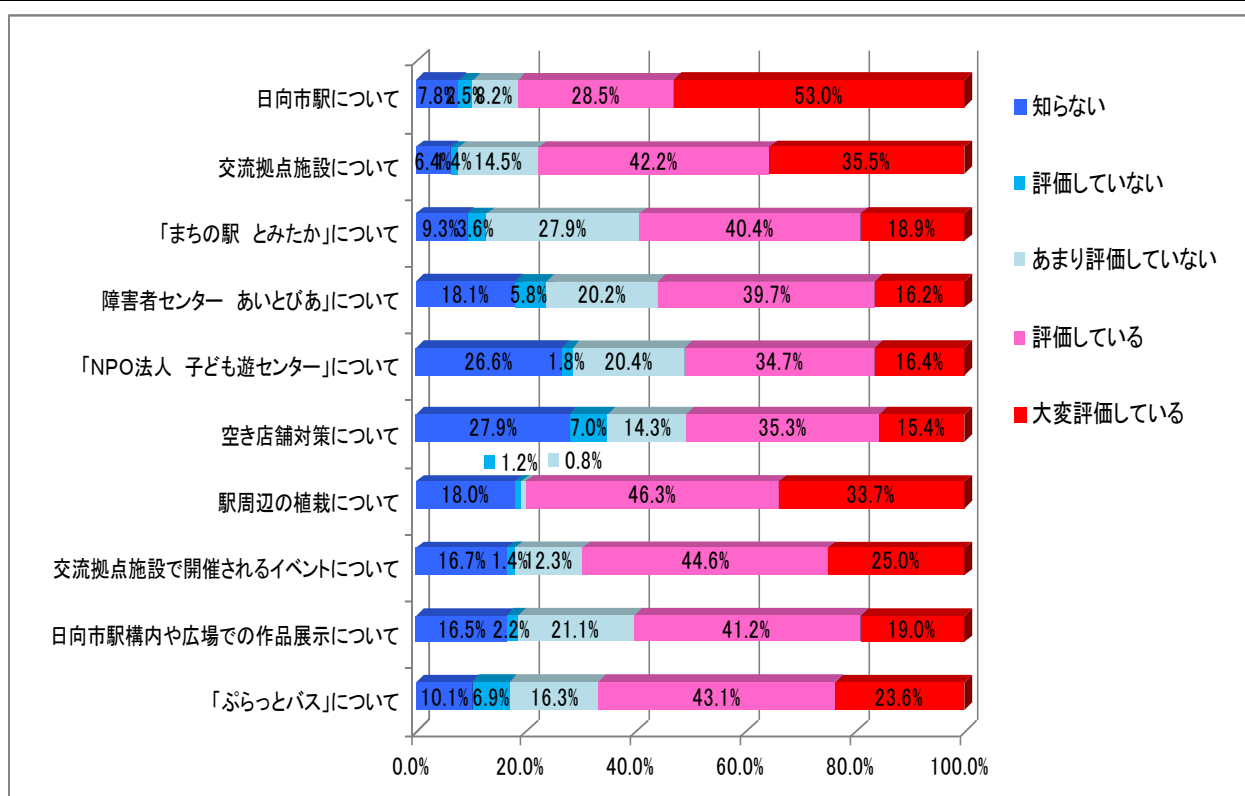
評価	割合
1 大変良くなった	26.4%
2 良くなった	53.8%
3 変わらない	15.1%
4 悪くなった	1.6%
5 その他	0.0%
6 無記入	3.1%



■日向市の中心市街地活性化事業の認知度について

全ての事業項目で「評価している」と「大変評価している」の合計が50%を超える結果となり、市民から事業に対してある一定の評価をされていることがうかがえる。

今後も、より事業の理解と認知度を深めてもらえるような施策を推進していく必要がある。



6. 今後の取組

認定期間が終了し、ハード整備も順調に進捗し成果は大いに得られた。

しかし、基幹事業である日向市駅周辺区画整理事業が1工区の上町地区が概成し、2工区の本町地区へと進んでいる中、中心市街地活性化協議会や市民、商店街等から更なる活性化を望む意見があることから、市独自計画として新しい「日向市中心市街地活性化基本計画」を策定した。この基本計画は、前回の基本計画の基本理念を踏襲しつつ、実施した事業の評価・再検討を行い、今後の財政状況等を踏まえたものとなっている。

基本的には、これまで整備されてきた施設等を更に有効活用するためのソフト事業をいかに展開していくかということを中心課題としながら、商店街を含む民間業者、行政やNPO法人等に加え、今まで街づくりをする中で培ってきた人的資源、ネットワーク等を活かした取り組みを行い新プランに沿って更なる中心市街地の活性化に取り組んでいきたい。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
人が集い、人がふれあう、活気に満ちた生活文化交流空間づくり	歩行者・自転車通行量	1,700 (H18)	2,250 (H25)	2,479	H25.10	A
誰もが安心して暮らせる、便利でコンパクトなまちづくり	活性化区域内の居住人口	1,278 (H19)	1,360 (H25)	1,417	H25.10	A
市民協働による持続可能なまちづくり	市民の企画によるイベント回数	40 (H18)	60 (H25)	73	H26.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進1捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

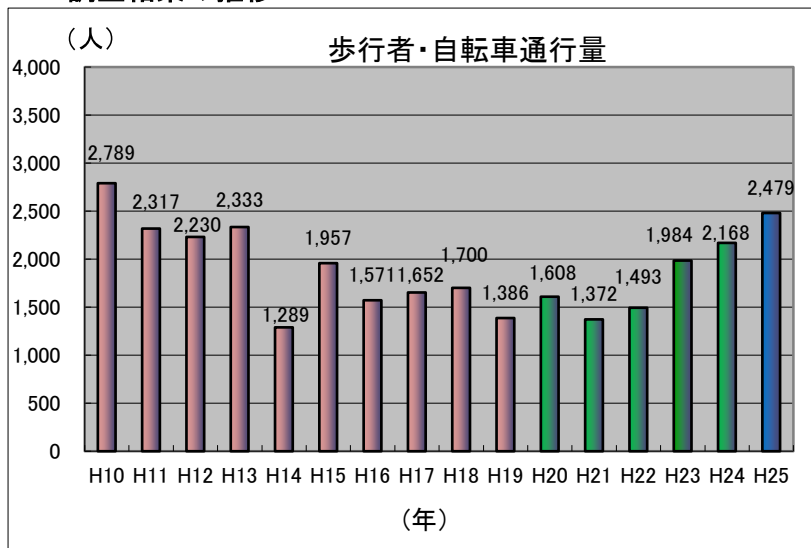
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標 1

目標「人が集い、人がふれあう、活気に満ちた生活文化交流空間づくり」

「歩行者・自転車通行量」 ※目標設定の考え方基本計画 P47 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	1,700 (基準年 値)
H19	1,386
H20	1,608
H21	1,372
H22	1,493
H23	1,984
H24	2,168
H25	2,479
	2,250 (目標)

※調査方法；歩行者・自転車通行者、毎年10月の第1日曜日に3地点において10時から19時で計測

※調査月；平成25年10月

※調査主体；日向市中心市街地活性化協議会（日向商工会議所）

※調査対象；中心市街地内（県道沿い フジヤカメラ前、三日月堂前、富高農園前）における歩行者及び自転車通行者の通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 日向市駅周辺土地区画整理事業（日向市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（区画）） 国土交通省 平成20年度～平成25年度
事業開始・完了時期	平成11年度～平成35年度 【実施中】
事業概要	施行面積 A=17.6ha
目標値・最新値	目標値：2,250人 最新値：2,479人
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	駅周辺土地区画整理事業の進捗に伴い、施設の整備が進み賑わいを創出できた。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業を施行することにより、中心市街地が整然となり、使い勝手の良い空間となった。
日向市駅周辺土地区画整理事業の今後について	今後も事業を推進して中心市街地の活性化に寄与する。

②. 上町地区集積区域整備事業（上町商店街新郷振興組合）

支援措置名及び支援期間	中小小売商業高度化事業に関わる特定民間中心市街地活性化事業計画の主務大臣認定 平成20年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度 【済】
事業概要	施行面積 A=5.9ha
目標値・最新値	目標値：474人 最新値：576人
達成状況	達成した

達成した（出来なかった）理由	商店機能の充実を目指し、街区毎にコンセプトを定め、魅力ある商業集積を進めた。
計画終了後の状況（事業効果）	「安心して安全な商店街」を目指し防犯灯や防犯カメラを設置したり、定期的に清掃活動行うなど組合員が一体となった活動が行われている。
上町地区集積区域整備事業の今後について	事業も完了し、今後も魅力ある街づくりを目指し「まちゼミ」の開催や商店街合同のイベントなどを計画するなどの動きが見られる。

③ 交流拠点整備事業（日向市駅前交流広場「ひむかの杜」、野外ステージ「木もれ日ステージ」）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画）国土交通省 平成 20 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 22 年度 【済】
事業概要	施行面積 A=3,400 m ²
目標値・最新値	目標値：420 人 最新値：544 人
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	活性化に寄与するイベントや学生イベントの減免規定や附属設備の使用料を安価に設定し使い勝手の良い施設を目指した。
計画終了後の状況（事業効果）	開催回数は、毎年増え続けイベント広場とし、定着し主要イベントはここで開催されるようになった。
交流拠点整備事業の今後について	事業は完了した。今後はイベント支援していきながら、イベント集客が周辺商店街に流れる仕組みづくりを関係機関と協議していきたい。

3. 今後について

目標達成に向けた主要事業である日向市駅周辺土地区画整理事業は、厳しい経済情勢を受け進捗率は約 52%であるが、公共施設の交流広場や歩道空間整備事業の完成、空き店舗対策事業により空き店舗率の改善などにより歩行者通行量の増加に効果があった。

しかしながら、本事業により有効活用されていない空地も存在する。

今後も地権者への建物建築の働きかけや新たな誘致活動を地元商店街や商工会議所等と連携図りながら取り組んでいきたい。

また、周辺商店街においても防犯灯や防犯カメラの設置に積極的に取り組んでおり、安心して来街できる商店街・見守る商店街活動を行っている。

今後も、関係機関一体となって支援していきたい。

歩行者・自転車通行量（参考値）

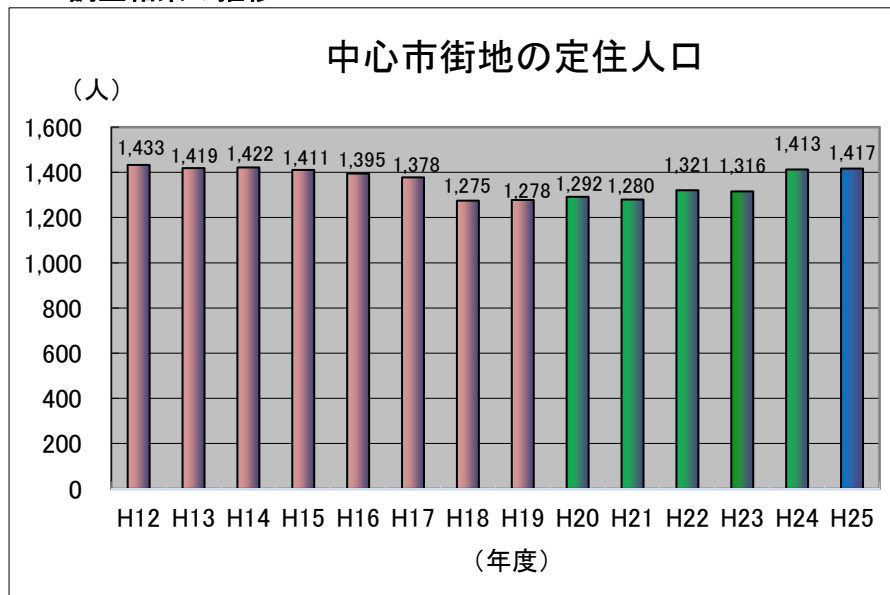
調査地点	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
現調査地点（3 地点合計）	1,700	1,386	1,608	1,372	1,493	1,984	2,168	2,479
日向市駅前（新導線地点）	—	—	987	965	1,229	1,290	1,462	1,372
合 計	1,700	1,385	2,595	2,337	2,722	3,274	3,603	3,851

個別目標 2

目標「誰もが安心して暮らせる、便利でコンパクトなまちづくり」

「活性化区域内の居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P52 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	1,275 (基準年値)
H19	1,278
H20	1,292
H21	1,280
H22	1,321
H23	1,316
H24	1,413
H25	1,417
	1,360 (目標)

※調査方法；統計情報

※調査月；平成 25 年 10 月

※調査主体；日向市 総合政策部 総合政策課

※調査対象；統計情報の地区別人口（都町、上町、本町、原町 1 丁目、鶴町 1 丁目、高砂町）

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 都心居住共同住宅（コルセ・カレ日向建設事業「(株) コーソク」）

支援措置名及び支援期間	平成 20 年度～平成 21 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 21 年度 【済】
事業概要	分譲高層マンション RC 造 地上 14 階建 総戸数 81 戸
目標値・最新値	目標値 126 人 最新値 103 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	分譲マンションのため、当初の目標を達成出来なかったが、徐々に増加している。
計画終了後の状況（事業効果）	入居者の買い物等が中心市街地区域内でなされている。
コルセ・カレ日向建設事業の今後について	入居率の増加を図る。

②. 介護事業所併設型高齢者賃貸住宅事業（グリーンハウスつるまち「JA日向」）

支援措置名及び支援期間	平成 18 年度～平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 19 年度 【済】
事業概要	RC 造 3 階建 総戸数 43 室
目標値・最新値	目標値 40 人 最新値 44 人

達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	日向市駅に近いという利便性と事業者による入所者（高齢者や障がい者）のニーズを第一に考えたサービスの結果
計画終了後の状況（事業効果）	入居者が鉄道高架下の側道や交流広場を毎日散歩する姿や駅前交流広場のイベントを楽しみにしている。
介護事業所併設型高齢者賃貸住宅事業の今後について	事業は完了し、供用開始し常に満床状態である。 入居待機者もいる状況で満床状態は当分の間続くようである。

3. 今後について

居住環境が改善されたことで、日向市駅の東口と西口に駅を挟むような形で民間事業者による高層マンション、賃貸マンションが建設され民間投資も増えてきている。

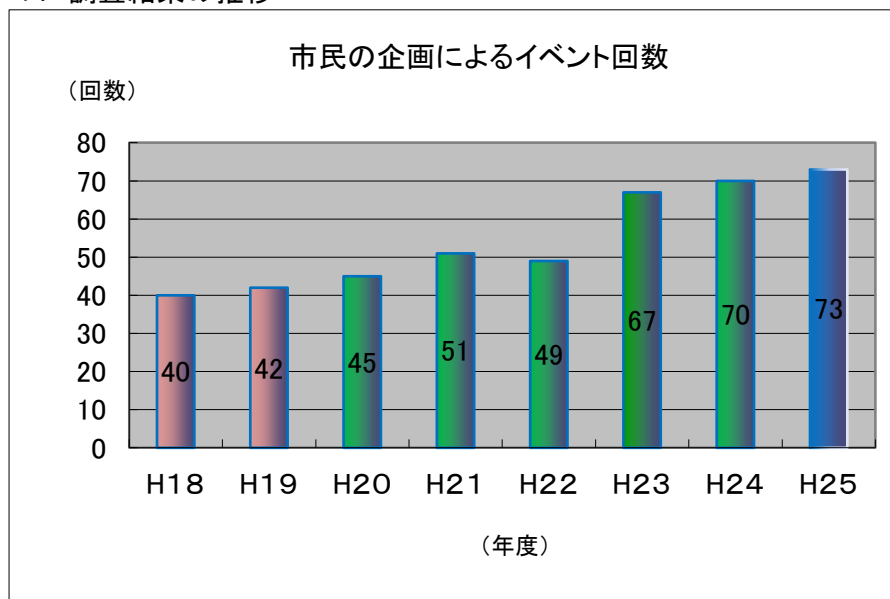
今後もこれまでと同様、区画整理事業を進めながら事業者自ら率先して街なか居住の推進を図る店舗併用住宅推進事業や街なか居住情報を積極的に発信することでまちなかへの居住を誘導し居住人口の増加を図っていききたい。

個別目標 3

目標「誰もが安心して暮らせる、便利でコンパクトなまちづくり」

「活性化区域内の居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P54 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：回)
H18	40 (基準年値)
H19	42
H20	45
H21	51
H22	49
H23	67
H24	70
H25	73
	64 (目標)

※調査方法；イベント主催者発表

※調査月；平成26年3月（4月～3月の累計）

※調査主体；日向市建設部 市街地整備課 中心市街地活性化推進室

※調査対象；活性化区域内で実施される市民が企画するイベント

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 街なかイベントマネジメント事業（（一社）日向市観光協会）

支援措置名及び支援期間	平成20年度～平成25年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成25年度 【実施中】
事業概要	交流拠点広場、野外ステージ等交流拠点施設の管理運営及び実施されるイベントをマネジメントする。
目標値・最新値	目標値 64回 最新値 73回
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	駅周辺土地地区画整理事業の進捗に伴い、施設の整備が進み賑わいを創出できた。
計画終了後の状況（事業効果）	イベント広場として定着し、市民発想の新しいイベント企画され開催回数も集客数も年々増加している。
街なかイベントマネジメント事業の今後について	今後も事業を推進して中心市街地の活性化に寄与する。

※イベント回数の主な内訳及び状況

- ・新規開催イベント 10回
- ・恒例イベント 19回
- ・定期開催イベント 33回
- ・街なかギャラリー（日向市駅構内展示イベント） 11回
- 合計 73回**

■代表的なイベント

イベント名	内 容	集客数
日向ひよっこ夏祭り (開催場所：交流広場及び商店街) (8月2日～3日開催)	豊作や商売繁盛の祈願を込めて大勢で赤い衣装をまとい中心市街地を踊り歩く、この祭りは、全国から熱心なファンや市民に支えられ踊り手や観客も年々増加している。	約 70,000 人
日向十五夜祭り (開催場所：交流広場及び商店街) (10月12日～13日開催)	800年前にさかのぼる歴史あるお祭で県北3大祭りの1つとなっている。 日向市の秋の風物詩となっており、日向市駅交流広場をメイン会場に開催される。	約 25,000 人
まちなかハロウィン (開催場所：交流広場及び商店街) (10月27日開催)	子ども達に街なかで思い出をつくってもらおうと、交流広場と周辺商店街を会場に開かれ、思い思いのコスチュームに身を包んだ子供たちや父母らを中心に大勢の人で賑わっている。	約 8,000 人
東九州自動車道開通 カウントダウンイベント (開催場所：交流広場) (3月16日開催)	3月16日(日)東九州自動車道「日向～都農間」の開通により、延岡から宮崎までが一本の高速道路でつながる日を記念するイベント。 県民全体で祝い、喜びを共有するため、県内4会場(宮崎、延岡、日向、都農)で開通記念イベントを同時開催した。	約 6,500 人

3. 今後について

交流拠点整備事業により日向市駅前交流広場「ひむかの杜」、同広場内に野外ステージ「木もれ日ステージ」、11街区公園広場「上町まちなか公園」が完成したことに伴い、イベント環境が大幅に充実し幅広いイベントが可能となり、年々イベント回数伸び集客数も約20万人となった。

今後も、イベント内容を充実させることで更なる街なかへ誘客を図るとともに、イベント情報と商店街情報を連携させる仕組みを構築することで街中への集客と商業の活性化を図っていきたい。